



第585号

「島のひろば」編集委員会
電話 04992-2-8256

Eメール・jcposhima@yahoo.co.jp
www3.plala.or.jp/jcposhima/

(検索サイトからは「日本共産党 伊豆大島」)

くらしの相談は共産党町議団へ
山田2-3670 橋本2-3614 小池2-9318

共謀罪

「加計」友、「森友」隠しへ

委員会すつとばし、数の力で強行採決

こわいですね! 安倍自・公のムチャクチャ暴走政治

日本共産党大島町委員会の見解を紹介します

6月15日、共謀罪法案は参議院で、安倍自公等によって委員会審議をすつとばし、いきなり本会議で強行採決。議会制民主主義を壊すひどい暴挙です。

共謀罪法は、テロには無関係の法律で、実際の犯罪行為がなくても、相談・計画したと捜査機関がみなせば、処罰の対象にできるようにするものです。憲法が保障する思想・内心の自由をふみにじり、捜査機関による盗聴・盗撮、密告、スパイ行為を横行させ物言えぬ監視社会をつくる、世紀の悪法です。

一方、安倍政権は、加計学園・森友疑惑の解明には、まじめに取り組まず背をむけ続けています。安倍首相が「腹心の友」と呼ぶ加計学園理事長との関係によって、公平公正であるべき行政が歪められたのではないかと、これが疑惑の核心です。自民公明は、関係者の証人喚問を拒否し、疑惑にフタをしようとする懸念です。数の力で悪法を強行し、国政を私物化する

「専制政治」野党の声・世論無視は

安倍首相と自民・公明の皆さんは、憲法制定に係わった佐藤功という学者の書いた少年向けの本「憲法と君たち」(1955年刊)の次の一節を今こそ「熟読」すべきです。《どうしても意見が一致しないということになったときに、しかたがないか

ら最後には数で決めるというのが多数決の正しいやり方なのだ。…だから、国会で法律をつくる場合にも、多数党が、多数決できめるのだから自分の方の意見が勝つにきまっているというふうにはじめからきめてしまつて、反対のある法律の案を出して、そして少数党の反対の意見などははじめから聞こうとせず、またろくに議論さえもしないで、数でおしきしつてしまうようなことではいけないわけだ。

…少数党がそのやり方を攻撃すると、「少数党のくせになま意気を言うな。お前たちがいくらやしがつても、こつちは数が多いのだ、だまつてろ」というような態度をとることがある。

こんなふうでは、国民のあいだにあるいろいろな意見が、国会に正しくあらわれないことにはならず、それは形のうえで民主主義にもとづいた議会政治のかつこうはしてはいるけれども、じつはむかし「専制政治と同じこと

両親の苦勞のもとで育ったからこそ「くらし・福祉第一」の都政へ綾(あや)とおる(党島部都政対策責任者)

(5.28演説会での発言その2)

炭鉱閉山と転職で苦勞を重ねた父は脳梗塞で他界、パーキンソン病介護を受けていた母も他界。母は当時、「みんなに迷惑をかけて申し訳ない」と不自由な手でハサミを持ち、自ら命を絶とうとしました。さぞかしつらかったらうと思います。福祉・介護の大切さを身近に感じた私自身の生き立ちが、都政への挑戦を決意させた原点となっています。



56歳のとき、澄んだ海、青い空、吹き渡る風につつまれた島の暮らしにあこがれ、島の人々のやさしさに心ひかれ、式根島に移り住んで8年半。島の皆さんと生活を共にするなかで、「この島で生まれ育ち、この島で安心して暮らし続けたい」という当たり前のささやかな願いを実現するには、交通・医療・教育・福祉・産業振興など、「本土との格差」を解消することがどうしても必要だと強く思います。島々を歩くと、「本土への通院の際の交通費・宿泊費の補助の充実を」「物価が高く、都内のスーパーに行くと感じて涙が出る」「海上運賃が高く家を建てるのに坪135万円もかかる」(小笠原)など、切実な声が寄せられます。海上輸送運賃対策、旅客輸送における鉄道運賃並みの航路運賃の実現が必要です。そのためには都と国の支援が不可欠です。人と物の行き来が活発になり、観光業をはじめ、産業振興に大いに役割をはたすことは、間違いありません。「だれもが安心して住み続けられる島」にするためには、くらし第一、「島民が主人公」の実効性ある具体的な施策が急がれます。汚染地で、今後60年間に累積赤字が1兆円と試算される豊洲移転や外環道など巨大開発を止め、暮らし・福祉、離島格差解消の都政へ、島民不在の都政から、島民の願いがまっすぐ届く都政に、力を合わせ流れを変えましょう。

だということになる。こんなぐあいではいろいろな法律がつけられ、そのなかには憲法できめてあることに反するようなことや、憲法の規定には反していないけれども、憲法の理想には反するような法律がつけられることになる。憲法がこんなぐあいにしてやぶられることがあるわけだ。また、こんなぐあいに多数決というやりかたが悪用されるとすれば、その結果つくられる法律が憲法に反するものであるかどうかとは関係なく、こういう国会のやり方が正しい民主主義を定めている憲法をやぶっているものだということになる。つまり、民主主義の政治を定めたはずの憲法が、むかしのような専制政治家によつてではなく、おもてむきは国民の代表だということによつてやぶられてしまうということになる。このところを君たちもよく覚えていてくれたまえ」

共産党町議団の一般質問

2017年6月定例会(1)



橋本博之議員

一、国保が広域化されても加入者の保険料上げをしないために一般会計からの繰り入れの継続を

国民健康保険を運営

するのは、発足以来区市町村でしたが、来年度(18年度)から、都道府県と区市町村が共同で運営する「広域化」が実施されることになりました。共同運営といつても、

1、国保財政は、町ではなく都道府県が運営する。

2、保険料は市町村ごとの標準保険料率を、都道府県が算定して、これを参考に町は保険料率を決めることとなります。

今までのように町が独自に条例で国保税を決め、議会で審議する仕組みがなくなりま

二、都立広尾病院について

橋本議員は、都立広尾病院の在り方について検討している「首都災害医療センター(仮称)基本構想検討委員会」(以下検討委員会)で、島しよに関する問題も検討している、として次の4点を提案しました。

- ① 検討委員会の検討内容を掴み住民に広報を。
- ② 検討委員会に町民の要望が新病院で実現体制をつくること。
- ③ 地域包括支援センターなど関係機関と連携し、島民が安心して必要な医療・介護が

このため、今、全国で「現在よりも保険料(税)が引き上げられるのではないか」との懸念が広がっています。

橋本議員は、この問題をとり上げ、次のように質問しました。

橋本 ① 今後も社会保障制度としての国保の役割を守っていくため、新制度のもとでも一般財源からの繰り入れを実施すること。

② 子どもの多い世帯ほど負担が重くなる国保税の均等割Ⅱ人数割り(現行一人1万6千円)は、18歳未満は引き下げ、第3子以降は無料にすること。

できる体制を整備すること。

④ 検討委員会の検討内容を現在の広尾病院で実現できるように町長の取り組みを。

町長

① 必要に応じ都と相談のうえ考えたい。

②③④とも大島町だけでは弱いので、他の町村長とも相談のうえ取り組んでいきたい。

広尾病院建て替えにあわせて「さくら寮」のような宿泊施設の建設拡充も要望していきたい。

③ 国保財源確保、保険料値上げ阻止のため東京都に財源措置を強く要望すること。

④ 全国知事会・町村会の「国保財政に国庫負担増額」の決議の要望を機会あるごとに強調すること。

④ 全国知事会・町村会も決議し、都の町村会としても都に国の費用負担割合拡大を国に要請するよう要望しているところで、機会ある毎に強く要望していきたい。

町長

① 保険料の推移を見極め、都と調整、他の自治体の動向もみずえ判断したい。

② 国保広域化の全体

大島文学・紀行散策

拾遺編

藤森成吉と山本実彦

五

4 5 7 時 得 孝 良

口バで三原山へ(続き)

八重川から先の登山道周辺の風物に好印象をもった山本の印象記を引用しよう。

《透逶(くねくね曲がり行くさま)たる坂路が石原、小石原の路で靴穿きではなかなか歩きにくいところが(琉球と)よく似ておる。そして、小石を積み重ねて家々の塀となしたところ、水桶を頭にのせて歩く女の姿、雨水を貯蔵して飲料水とするところまで琉球ソツクリであるのだ。そうしたことども驢馬の上で思い浮かべつつ、黄楊樹や椿、松、杉、桜、タモノ木の茂みの中を登って行くのであった。大島名物の椿の花は、そこかしこに赤く咲きほこつて何だか正月らしい賑やかな気分を見せておる。昨日は寒威厳霜の都にありて、今日は椿花満開の島に春を満喫することのできる嬉しさを私は心より喜んだ。僅か東京より七十哩の所にこうした楽園の存在しておることは、都の人々にたいしてどれほど大きな天恵であろう。それに半熱帯的の植物のなかに大きな呼吸のできる愉悦はたえようのないものである。山は登る

にしたがつて、何だか密林性を現してくる。そして樹々の根もとや岩々の間には青い苔がむしていて、なんとも云えぬ趣をたたえている。

元村でタツタ一つの泉として珍重さるる八重川清水の周囲など鬱々たる喬木灌木の間に囲まれて十坪ばかりの清泉のあふれるところに私等は小憩した。そして、私は水を掬って飲もうと思つて手を出したが、泉底にうづたかく落葉が重なつておるのを見たので思わず手をひっこめてしまった。島人が一番大事にして不断使用を禁じておる泉さえこの通りだ。この島に水の乏しいことは、ほんとは残念でたまらない。》

話はそれるが二人が小憩した八重川は地元で「やあがあ」と呼ぶと云う。こうした歴史的な場所には、「浜の川」も含め周辺を整備し保存したいものである。(以下次号)



元村八重川前で(右藤森、左山本)